

1年生 教職ガイダンス

円滑に履修を進めるためのヒント



教職課程・免許状について

- **教職課程履修願を提出した人しか受講できません。**
前期に提出した人は改めて提出する必要はありません。
- **履修要件内規を満たす人しか実習に行けません。**
『履修ガイド』経済学部p.54、スポーツ学部p.42を参照してください。
- **公立学校の教員採用試験の日程の変更**
参考：令和5年7月9日 → 令和6年6月16日（九州地区統一試験日）
- **公立学校の教員採用試験は難関です。**
採用試験の専門教科は、大学入学共通テストや国立大学入試レベルを目安にしてください。

免許状取得に必要なもの

- **基礎資格**
卒業要件単位の修得、欠格条項非該当
- **所定の単位（学生便覧p.66～76）**
 - 教科及び教科の指導法に関する科目
 - 教育の基礎的理解に関する科目
 - 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目
 - 教育実践に関する科目
 - 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
- **介護等体験（中学校教諭一種免許状の場合）**

科目履修方法①

- **自分の取得したい免許種に応じて必要な科目を確認してください。**
 - **全員必要**（免許法施行規則66条の6科目）・・・別表力（学生便覧p.76）
 - **取得免許状別に必要**
 - ◇ 中学社会（経済学部）……………別表ア（学生便覧p.66～67）
 - ◇ 高校地歴（経済学部）……………別表イ（学生便覧p.68～69）
 - ◇ 高校公民（経済学部）……………別表ウ（学生便覧p.70～71）
 - ◇ 高校商業（経済学部）……………別表工（学生便覧p.72～73）
 - ◇ 中高保健体育（スポーツ学部）……………別表オ（学生便覧p.74～75）
- **教職科目は再評価がありません。評価が不可となった科目は次の機会に再履修してください。**

科目履修方法②

□ 別表ア～カで単位の種別と年次配当時間数を確認し、履修が必要な科目と今期に開講される科目の見当を付けてください。

- 経済学部 「教育制度論」「教育心理学」など
- スポーツ学部 「教育原論」など

必ず
両方
確認

□ 時間割で該当の科目を見つけて履修登録してください。

- 都合により、配当の学期を変更している場合があります。時間割を見る際に、必ず確認してください。
- 時間割に「【教職】」と記載がなくても免許取得に必要な科目があります。また、時間割に「【教職】」と記載があっても、取得免許状の教科によっては履修不要な場合もあります。

5

高等学校地理歴史科希望者へ（別表イ）

重要

□ 経済学部生で**高校地歴の免許状を取得する学生は、別表イ（学生便覧 p.68～69）記載の科目をすべて修得する必要があります。**

- 「教科及び教科の指導法に関する科目」は本学最低修得単位数の合計が「40単位以上」となっていますが、p.68には40単位分の科目しか挙げられていません。
- また、p.69の「教育の基礎的理解に関する科目」等もすべて「教免必修」です。
- したがって、「教免必修」「選択」の区分に関わらず、**全部の単位を修得しないと免許状が発行されません。**

6

教育実習に関する注意（高等学校商業）

重要

- 本学では、3年次に受講者が各自で実習希望の学校（主に母校）へ連絡を取り、実習受入を依頼することを原則としています。
- 経済学部生で**母校に商業科の科目開設がないにもかかわらず、商業の免許状のみを取得する学生は、実習校探しが困難**となります。
- 複数の免許を取得できるよう単位修得するなど、計画的に履修を進めてください。

7

各自で必ず確認してください

□ 時間割で「【教職】」と記載のある科目を登録する際の注意点

- 「【教職】」と記載がなくても免許取得に必要な科目があります。また、「【教職】」と記載があっても、免許状の教科により、法令上は履修不要な場合もあります。

□ 先輩や友人の履修登録を参考にする際の注意点

- 2023年度入学生から教育職員免許法施行規則等の一部が改正され、科目名、配当年次等が変更になっています。
- それぞれに単位修得状況や取得免許状が異なります。友人とは助け合いつつも、最終的には**各自で必ず確認してください。**

8

後期に向けて準備すべきこと

□ 履修カルテ

- 前期から履修している人は、操作説明を参照して、前期修得科目の振り返りを入力してください。

□ セルフ健康チェック

- 自らの健康に留意するとともに毎日の健康状態と行動の記録を取りましょう。

9

充実した教職課程履修に向けて

- 今期の教職科目履修を通し、進路選択に向けたビジョンをもってください。
- 取得したい免許状の種類や、採用試験を受ける自治体などの情報を入手し、リサーチを始めましょう。
- 教職を第一志望にしている人は、希望進路実現へ向けた活動や学習を始めてください。

実りある後期の授業になるように臨みましょう！

10

1年生 教職ガイダンス

円滑に履修を進めるためのヒント

教職履修カルテの入力について《重要》

教職履修カルテについては、教職課程を履修する全学生が必ず行う必要があります。別紙の「履修カルテ 操作説明書」に従って、UNIPA 上で、下記の期間中に入力完了させてください。入力していないと4年生後期開講の「教職実践演習（中・高）」が受講できなくなります。また、教職課程履修願を未提出の場合は入力できません。

特に4年生は、後期の「教職実践演習（中・高）」受講要件となりますので、新規に入力事項がない場合でも、改めて内容の確認をして、必ず確定ボタンをおしてください。

なお、入力方法等、不明な点は教務課へお尋ねください。

記

【入力について】

- ①入力要領については、別紙『履修カルテ 操作説明書』で確認して入力してください。
 ②教職履修カルテの入力項目は以下の5つです。自己を振り返って、入力を行ってください。
 なお、科目等履修生も入力が必要です。

1	目標設定	今年度前期の履修カルテ入力期間に入力していない場合は、現在の学年欄について、今年度の目標を入力してください。 なお、科目等履修生は、1年次の欄に記入してください。
2	資格関連科目 修得状況	今年度前期を振り返って、入力してください。 なお、科目等履修生は、画面に科目の掲載がある場合、記入してください。
3	学外活動に関する科目	今年度前期を振り返って、入力してください。特に書くことがない場合は、記入の必要はありません。 なお、科目等履修生も同様です。
4	必要な資質能力についての自己評価	<p>【1年生】 来年度前期に今年度分を振り返って入力します。（今回は、この項目に関して入力は不要です。）</p> <p>【2・3年生】 今年度前期の履修カルテ入力期間に入力していない場合は、前年度分（前の学年）を振り返って、入力してください。（現2年生は、1年生の欄に入力。現3年生は2年生の欄に入力すること。）</p> <p>【4年生】 今年度前期の履修カルテ入力期間に入力していない場合は、前年度分（前の学年）を振り返って、入力してください。（3年生の欄に入力。） また、4年生前期を振り返って4年生の欄に入力してください。</p> <p>【科目等履修生】 今年度前期の履修カルテ入力期間に入力していない場合は、前年度分（前年度）を振り返って、入力してください。（1年生の欄に入力）</p>
5	教職を目指す上での課題・対策	<p>【1～4年生及び科目等履修生】 今年度前期の履修カルテ入力期間に入力していない場合は、今年度分を入力してください。</p>

- ③入力後は、必ず確定ボタンを押してください。また、一旦ログアウトして、再度ログインして、正しく登録されているか確認してください。

【入力期間・学内利用可能場所について】

<p>入力期間 9月11日（月）9：00～9月25日（月）23：59</p> <p>学内PC利用可能時間 9月11日（月）9：00～17：00 （S333, S354, S364, S424, S432） 9月12日（火）9：00～15：00 （S333, S354, S364, S424, S432） （ネット環境のあるパソコンからであれば自宅等からも入力可能です。）</p>
--

以上

履修カルテ 操作説明書

1. UNIVERSAL PASSPORT にアクセスし、ID およびパスワードを入力。

URL <https://unipa.kyukyo-u.ac.jp/kku-uprx/>



2. 上部のメインメニューの[履修カルテ]より、[履修カルテ登録]を選択します。その後、学籍番号を入力し、検索ボタンを押してください。



3.【履修カルテ登録】画面が表示されます。

①『基本情報』タブを押下し、『目標設定』エリアを設定します。

提出受付中

[提出受付中]になっているときに学生は履修カルテの更新が可能です。

PDF/Excel形式で履修カルテのダウンロードが可能です。

2019年度以前に入学した学生については、以前のシステムのデータが、全て1年次の枠に登録されているため、必要に応じて修正してください。

また、改行等の体裁も現システムの枠に合わせて必要に応じて修正してください。

一定時間画面操作がない場合、ログアウトされ、保存を押していない入力内容は破棄されますので定期的に一時保存をしてください。

②『資格関連科目 修得状況』エリアでは、プルダウンから資格を選択すると、下部に資格関連科目で修得した科目の一覧が表示されます。

資格 教職希望(スポーツ)

科目	単位数	修得年度学期	担当教員	素点	学修の振り返り
バドミントン	1.0	2018年度前期	田島 さと		A B A(楽しかった) A(楽しめないのが悔しい)

・学修の振り返りを入力してください。

・2019年度以前に入学した学生は、今まで自己評価をA~Eでおこなった上で、コメントを書てきましたが、今後は、コメントのみの入力です。

・入力可能文字数は半角 200 文字までです。(全角は 2 文字でカウントします。)

・2019年度以前に入学した学生は、以前のシステムに制限文字数以上の入力があったものについては、200文字以降が切り捨てられているため、修正してください。

③『学外活動に関する記録』エリアを設定します。行追加をクリックすると入力エリアが表示されます。

④『自己評価』タブを押下し、『必要な資格能力についての自己評価』エリアを設定します。

資格プルダウンから資格を選択し、各指標の自己評価を入力します。

必要な資格能力についての自己評価

資格: 教員免許状・スポーツカルテ

A: 目標達成度80%以上 (達成している) B: 目標達成度60%以上80%未満 (達成に近づきつつある) C: 目標達成度40%以上60%未満 (中間的段階である) D: 目標達成度20%以上40%未満 (初歩的段階から進歩) E: 目標達成度20%未満 (初歩的段階)

評価分類	評価項目	指標	1年次	2年次	3年次
学校教育についての理解	教職の意義・役割	教職の意義、理念を理解しているか			
	教育史、教育思想についての素養	教育の歴史、教育思想について基礎的な素養を修得できているか			
児童生徒に対する責務	学校教育の社会的役割についての理解	学校教育の社会的責務、教員の職務内容を理解しているか			
	教師としての責務	児童・生徒に対する教師としての責務を理解しているか			
	心理・発達論的な理解	児童・生徒を心理・発達論的知識で理解する素養を修得できているか			

以下の項目の自己評価を入力して下さい。

A 目標達成度80%以上 (達成している)
 B 目標達成度60%以上80%未満 (達成に近づきつつある)
 C 目標達成度40%以上60%未満 (中間的段階である)
 D 目標達成度20%以上40%未満 (初歩的段階から進歩)
 E 目標達成度20%未満 (初歩的段階)

⑤『教職を目指す上での課題・対策』エリアを設定します。

⑥履修カルテの入力が完了したら【確定】をクリックしてください。

**令和7（2025）年度（令和6（2024）年度実施）以降の
「教員採用試験の大学推薦」に係る対応について**

1. 大学推薦に係る方針について

大学推薦に関しては、学長による推薦という位置づけであることから、大学推薦への志願を希望する学生との面談等を通じ、教員としての資質・能力を総合的に判断して、教職担当者及びスポーツ教育コース担当者との連携の下に選考案を作成のうえ、ゼミ担当教員、経済学部長及びスポーツ学部長との協議、教職課程委員会での審議を経て決定し、学長による決裁を仰ぐものとする。

なお、ゼミ担当教員、経済学部長及びスポーツ学部長との協議結果に基づき、大学推薦への志願を希望する学生の所属学部長から教職課程委員会委員長宛の推薦状（様式は任意）を提出することとし、提出された推薦状を教職課程委員会における審議資料に含める。

2. 大学推薦の対象となる学生について

学長による推薦という位置づけである大学推薦の趣旨をふまえ、大学推薦の対象となる学生については、大学推薦を得た場合、他の自治体の教員採用試験や他の職種（公務員や民間企業等）の採用試験との併願が認められないことを十分に理解し納得している者とする。

3. 教員としての資質・能力の総合的な判断に関する要素について

(1) 知識について、以下3つの観点から総合的に判断する。

- ① 一般教養の修得（GPA 値を指標）
- ② 希望する受験自治体の推薦要項や要件等への精通
- ③ 教職教養や専門教養の修得（教員採用試験模擬テストの成績を指標）
・3年生の後期から、原則、毎月1回実施されている模擬テスト（小学校を含む）の受験を課す。

(2) 技能（指導力）、及び思考力・判断力・表現力等について、以下3つの観点から総合的に判断する。

- ① 模擬授業・場面指導の技能
- ② 集団討論の対応力
- ③ 自己PRやプロフィールシート等の作成力

(3) 学びに向かう力・人間性等について、以下4つの観点から総合的に判断する。

- ① 面接（個人や集団）の対応力
- ② 教職課程の授業や各種の講座や研修等への参加状況や態度等に示される主体性、及び、提出物等に取り組む姿勢
- ③ 各種の授業等でのグループ活動における協調性や協働性、リーダーシップやフォローシップ
- ④ 教員になろうとする強固な意志

（裏面に続く）

4. 本対応（案）の実施に向けたスケジュール（概要）について

- (1) 後期の教職課程ガイダンスにて、推薦に係る方針及びスケジュール等を発表する。
受験しようとする自治体の推薦制度の有無、その実施内容や推薦要件等について、各自で調べさせる（基本的に教員側からの情報提供は行わない）。
- (2) 受験希望のある学生は、教職担当者へ申し出て、面談を受ける（時期等は別途検討）。
- (3) 面談時に、受験自治体の実施内容や推薦要件等について本人から確認するとともに、上記1、2、及び3について詳細に周知し、推薦候補者としての希望の有無を確認する。
- (4) 上記3.の各項目（(1) (2) 及び (3)）について、それぞれ実施する（実施要項については別途検討）。
※ 実施時期の候補としては、事前事後指導や教職実践演習の年内実施が終了した、12月以降の月曜の1・2限など。
- (5) 選考会議については、後期の成績確定直後（2月又は3月）とする。
教員採用試験の前倒しにより、九州地区の1次試験実施日が6月16日（日）となったことから、大学推薦に係る出願締め切り日も今年度に比べて早まる可能性が十分にあるため。

5. その他

- (1) 来年度からは、スポーツ学部の学生は、夏期及び冬期の「教員養成セミナー」の参加を原則として義務づける（公式戦等と重なった場合は免除を検討する）。
- (2) 大学推薦について新たに開始されることの発表が遅かった自治体の場合には、別途、準備した模擬テストや面談等を課すものとする。

（以上）